社会福祉法人楽山会
椎の実子供の家　地域交流スペース
令和４年度　事業報告書

１　しいのみハウスの開設

多世代が交流しながら、子どもたちの生き抜く力を育む「子ども第三の居場所」として、日本財団の助成（開設・運営）を受けて、令和４年11月１日に「しいのみハウス」を開設した。ここでは、誰一人取り残さない地域子育てコミュニティをつくることで、「みんなが、みんなの子どもを育てる社会」を目指している。

同年６月２日から９月20日まで、地域交流スペース整備工事として、家具等建築工事・給排水工事・厨房機器設置工事・家具備品工事を実施した。施工面積はホワイエを含め102㎡で、食事・交流・学習・体験活動スペース、厨房、地域情報コーナー、リユースコーナーなどを設けた。

同年10月１日からスタッフ２名を雇用し、開設準備に着手した。しいのみハウスの運営開始までに、関係各所（自治体・学校・地域団体など）に出向き、事業の説明を行ったほか、10月に内覧会を２日間実施した。

２　目標と実績

子どもの好奇心や意欲を向上するような体験活動を子どもたちの意見を聞きながら日常的に計画し、実行しており、多様な体験の機会が提供できている。

近隣の学校、学童保育所、地域子どもクラブ、社会福祉協議会、行政機関、諸団体と幅広く連携してきた。子どもたちの利用が多数あるのは、広く保護者や地域住民に認知されたためと考えられる。子どもの居場所が保育所の園舎に併設されていることから、子育て家庭が安心感をもって、親子（未就学児）での利用が多い。

（1）　利用児童数

一日平均利用児童数15名を目標にしてきたが、令和５年３月31日までに、その目標を達成している。令和５年３月の実績では、一日平均利用児童数（小学生）９人（登録児童数59人）、未就学児７人（登録児童数18人）となっている。おおさわ学園の学区内だけでなく、調布市にある小学校の児童も複数利用している。

大学生や留学生・地域住民のボランティア参加が増えてきた（登録者

約 20 人、実活動約 7 人)。単なるお手伝いではなく、できるだけ企画・実行の役割をもって活動していただき、多世代・多文化交流機会を提供している。行政、学校との密接な連携ができている。

(2) 参加者の状況

① 活動プログラムの数、サービス提供の役割を持つようになった人(運営参画者)の数は、開始 2 か月後と比較して 20%増を目指してきたが、着実に増加して目標を達成している。特に大学生・留学生の参加が定着している。自主活動グループでは、2 グループが現在活動している。

② 子どもに関する保護者からの相談件数は、17 件あった。

③ 参加者満足度は、75%以上を目標とした。参加者アンケート調査を令和 5 年 3 月に実施したところ、次のような回答を得た。

・子どもたち(7 人)の満足度: 大変満足 70%・満足 30%
・保護者(5 人)の満足度: 大変満足 100%
・運営参画者(4 人)の満足度: 大変満足 100%

3 活動の特徴

(1) 多世代が交流する居場所

子どもたちが地域のボランティアなどの多世代と交流して、多様な体験をすることで、人と係る力、好奇心、学習意欲、自己肯定感を高めることに寄与している。また、課題のある子どもの早期発見や見守りを行ってきた。

(2) 多文化との触れ合いの場

国際基督教大学等の大学生やミドルベリー大学の留学生が参加し、多世代・多文化交流の機会を提供した。子どもの居場所での実習が国際基督教大学の授業として認定されているので、大学生・留学生が定期的に参加していることも子どもたちのよい刺激になっている。

(3) 地域の交流の場

地域の方が気軽に立ち寄れる居場所となることを目指して、カフェ運営している。子育て中の母親、地域の方がリラックスできるプログラムを提供し、相互交流の機会を創出してきた。

4 事業内容

(1) 定員

乳幼児から小中学生まで30名。家庭や自身に課題を抱えた子どもたちだけでなく、分け隔てない利用を促進することとして、一日平均15名の子どもの参加を見込んだ。

(2) 開所時間

子どもの居場所運営時間は、月～金までの週5日、14時から18時30分まで。

11時から14時までは、コミュティカフェとして、椎の実子供の家の親子ひろば参加者、地域の方々など、誰でも気軽に立ち寄れて、食事や交流を楽しむ憩いの場としている。

(3) 活動内容

① 多世代・多文化交流による子どもの居場所（14時～18時30分）

宿題、自習、木工体験、染め物体験、書道体験、調理体験等の体験活動、読書や地域の方による読み聞かせ、留学生による多文化紹介、手芸や工作、ボードゲーム、ごっこ遊び、人形遊び、大縄や卓球等の運動遊び体験の提供を行った。

② コミュニティカフェの運営（11時～14時）

子育て家庭の情報交換の場づくり、カラー診断等の子育てママや地域の人向けのリラックスプログラム、リースづくり等のワークショップを実施した。

(4) 活動の成果

大学生や留学生、地域のボランティアとの遊びや体験活動などによる多世代・多文化交流を通じて、子どもたち自身の人と関わる力や自己肯定感の高まりが認められる。大学生や留学生たちとのふれあいは子どもたちの好奇心を刺激している。

家庭や自身に課題を抱えた子どもたちも、分け隔てない居心地のよい居場所で楽しむことができている。

子どもたちがジュニアボランティア（登録児童数約30人）として活動し、居場所に立ち寄る参加者としてだけでなく、自身ができる役割をもって企画運営に参画するようになっている。